

藤原洋数理科学賞受賞者のことば

2022年1月15日に第10回藤原洋数理科学賞が授与されました。授賞式は新型コロナウイルス感染症の影響で延期され、今秋第11回と合同で行われる予定です。

ここでは受賞者で日本数学会会員の佐々田槿子氏に業績紹介を含めた文章を書いて頂きました。

奨励賞 佐々田 槿子
(東京大学大学院数理科学研究科准教授)

受賞業績

大規模相互作用系の巨視的なふるまいに関する研究

この度は、藤原洋数理科学賞奨励賞をいただき、大変光栄です。これまでお世話になった皆様に心より感謝いたします。特に、これまで一緒に共同研究をしていただいた方々、また、いつも様々な数学やその応用についての楽しい議論を一緒にしてくださる方々のおかげで、このような賞をいただくことができました。

たくさんの相互作用する粒子の運動から、その巨視的なふるまいを厳密な数学によって導出するという研究は、非平衡統計力学の基礎づけを主な目的として、すでに数十年にわたって多くの偉大な先人によって研究されてきました。大学院生の頃にこのような魅力的な研究分野があると知ってから、常にその面白さに魅了されながらも、自分にもまだ何か新たにできることがあるのだろうか、という不安も同時に感じてきました。最近になって、箱玉系などの離散可積分系に対して、その巨視的なふるまいを研究するという新しいテーマと出会うことができたこと、また、修士学生の頃からの疑問を群コホモロジーというこれまでこの分野ではおそらく使われたことのない考え方をを用いることで解決できたこと、という、2つの自分自身が心からわくわくできることがありました。ようやく、不安を研究の喜びが大きくこえるようになってきていると感じているところに、このような素晴らしい賞までいただくことができ、本当に感謝の気持ちばかりです。どちらも、自分の専門とは異なる分野の方々との共同研究によって生まれたものです。今後も、様々な分野の方と共に心躍る研究ができればと思っています。